

富士見市防災環境カルテ
鶴馬1丁目町会

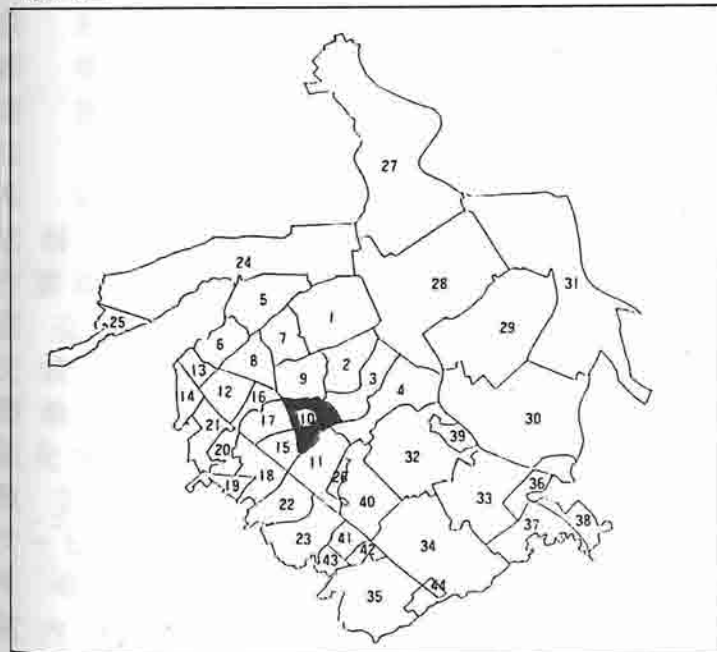
位置番号 10

・概況

鶴馬1丁目町会は、富士見市の中部に位置し、東側から南西へ台地（台地段丘）を2分するように低地（谷底平野）が延び、この低地の周縁には、崖〔段丘崖（緩急）〕と浅い谷（浸食凹地）がある複雑な台地で形成されている。環境は、住宅と田園が融和した良好な地域である。ただし、権平川沿いにある住宅地（鶴馬1丁目15番地付近）は地盤が軟かく、水が集まりやすい地形にあるため災害に弱い地域となっている。

水害は、水害履歴から低地の中を流れる権平川が台風に伴う大雨により溢水して、権平川沿いの家屋が浸水する内水災害が予想される。しかし、近年、権平川の改修工事により内水災害の発生は少ない。地震災害は、低地、浅い谷を盛土して宅地化した住宅地内で建物の倒壊の危険性が高く、また、出火・延焼の危険性もやや高いと予想される。

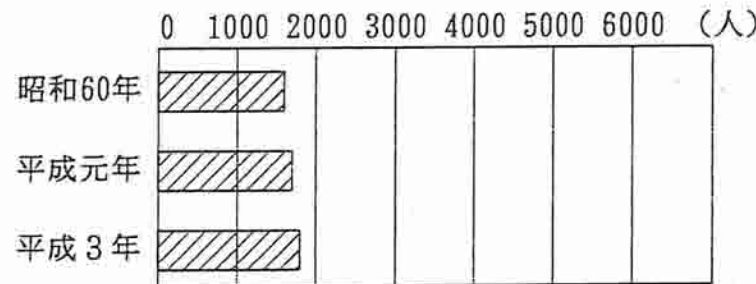
・位置図



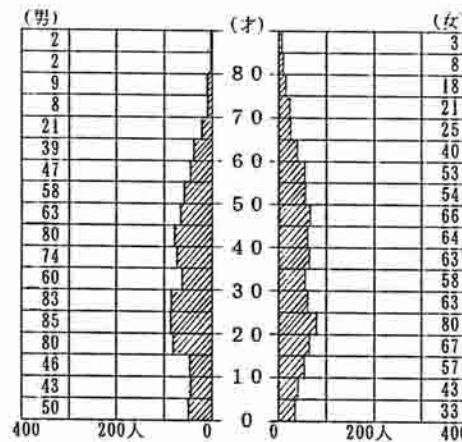
1. 基礎指標

・面積	0.225 km ²
・人口(平成3年10月1日現在) 男	847人
女	816人
計	1,663人
・人口密度	7,391.1人/km ²
・寝たきり老人数	2人
・ひとり暮らし老人数	7人
・世帯数	622世帯

・人口推移

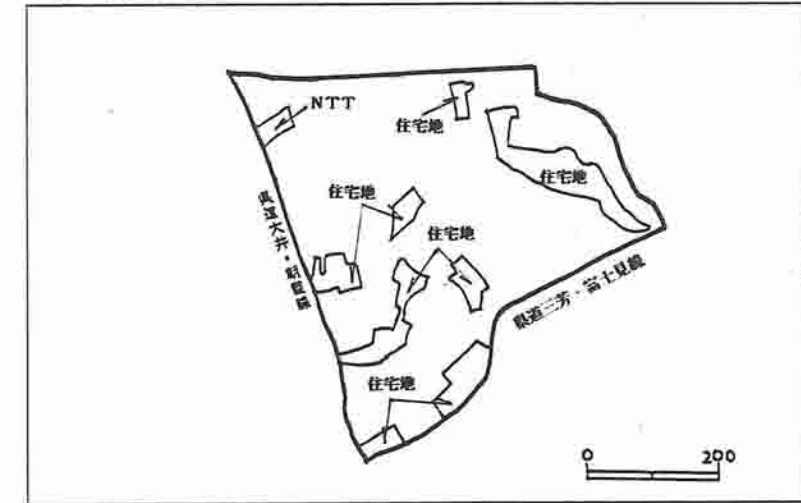


・年齢別人口(平成3年)

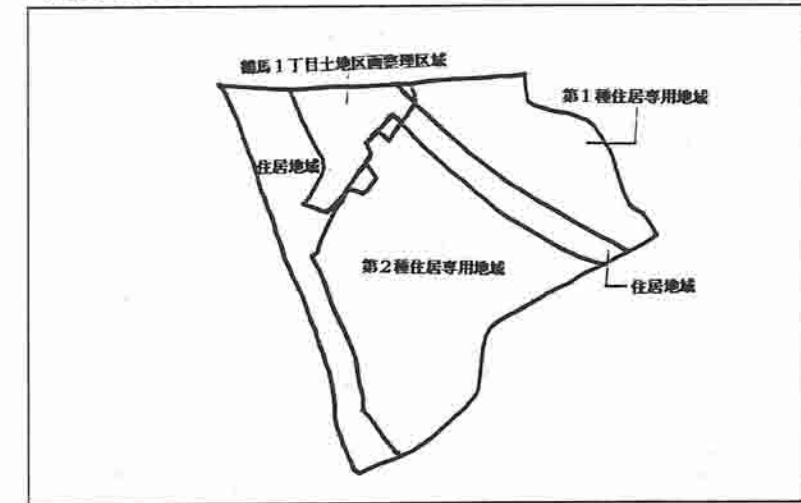


・商住工混在率住居系	95.4%
店舗系	2.7%
工業系	1.9%

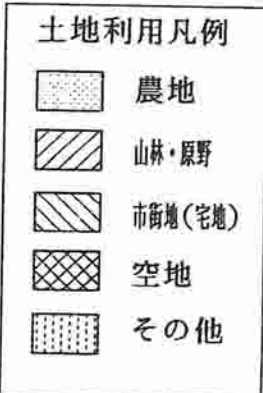
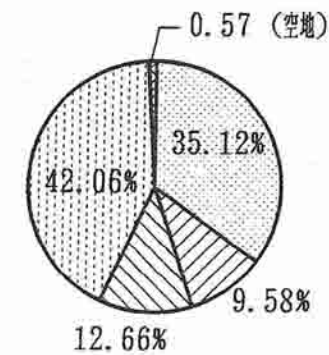
・町会現況図



・用途地域図



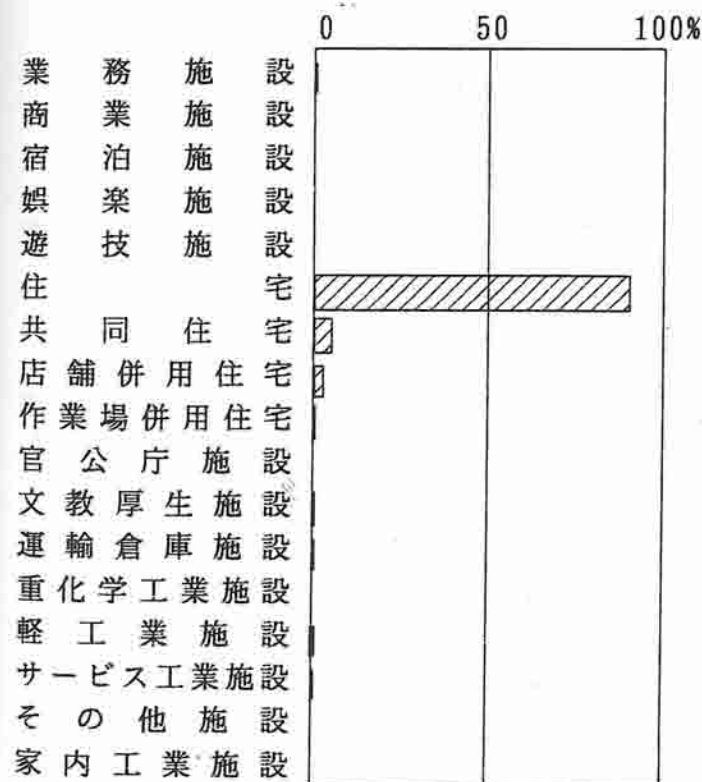
・土地利用現況



2. 建物指標

・建物棟数	552棟
・木造建物	507棟
・非木造建物	45棟
・建物面積	24,289.64㎡
・木造建物	19,320.05㎡
・非木造建物	4,969.59㎡
※建物面積は1階の面積	
・住宅率	90.0%
・木造率	91.8% (507棟)
・昭和34年以前の木造家屋実棟数	28棟
・同上率	5.5%
・建物階層別現況(木造建物)	
1階	167棟 32.9%
2階以上	340棟 67.1%

・建物用途別現況



3. 道路空地指標

・道路率	35本 155.6本/㎢
・幹線道路率	2本 8.9本/㎢
・公共空地面積	5,000.0㎡
・公共空地率	2.2%
・1人あたり公共空地	3.0㎡/人
・公共空地内容(*指定避難所)	
名称	面積
1. 高校	0㎡
2. 中学校	0㎡
3. 小学校	0㎡
4. 公園	0㎡
5. 緑の散歩道「谷津の森」	5,000.0㎡

4. 消防指標

所轄消防署	入間東部地区消防組合富士見消防署 所沢市、川越地区消防組合、 応援協定 新座市、志木市各消防本部
・消火栓本数	15本
・1消火栓あたり世帯数	41.5世帯/本
・消防水利貯水施設数	6 (2) か所 ()内は容量40トン以上の施設数
・消防団機械器具置場	0

5. 危険物指標

・給油取扱所	0か所
・一般取扱所	1か所
・屋内・屋外(タンク)貯蔵所	0か所
・地下タンク貯蔵所	1か所

6. 既往災害

・家屋浸水被害	床下	床上	道路冠水
昭和51年 9月(氾濫17号)	253棟	0棟	か所
” 57年 9月(氾濫18号)	24棟	9棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
・崖崩れ被害 (年 ~ 年)			0件
・火災出火件数 (年 ~ 年)			0件
・1923関東大地震被害			
家屋全壊			0戸
家屋半壊			0戸
被害率			0%

7. 防災基盤施設

消防	0か所	
病院	0か所	
医院	2か所	横田医院
休日診療所	0か所	
警察	0か所	警察署 派出所
水防施設 その他の施設	0か所	
・自主防災組織(数)	0	
・自主防災組織参加世帯率	0%	
・飲用井戸本数	0本	

8. 危険度評価

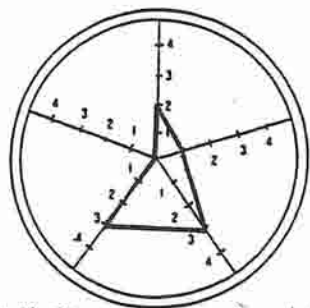
・内水災害危険度	2ランク
・外水災害危険度	0ランク
・土砂災害危険度	0ランク
・木造建物被害危険度	1ランク
・木造建物出火危険度	3ランク
・木造建物延焼危険度	3ランク

地盤	地盤の地震動危険度	浅い谷	2	台地	1ランク
危険度	液状化危険度	"	1	"	0ランク

※ 危険度評価ランク

危険度	無	微	小	中	大
ランク	0	1	2	3	4

内水災害危険度



液状化危険度

木造建物被害危険度

木造建物延焼危険度

木造建物出火危険度

※ 想定震度 台地5(+) (強震(強))
 低地6(+) (烈震(強))

9. 地盤条件

地盤は、北西部と南東部の台地で硬く、台地を2分する低地部で軟らかくなっている。台地部では、震度5(+) (強震の強い方)、低地部(鶴馬1丁目2番地、4番地、5番地、7番地(市立第1保育所付近)、15番地)で震度6(+) (烈震の強い方)、浅い谷(鶴馬1丁目9番地、10番地、11番地)で震度6(-) (烈震の弱い方)の地震が予想される。この地域は権平川沿いに分布する。

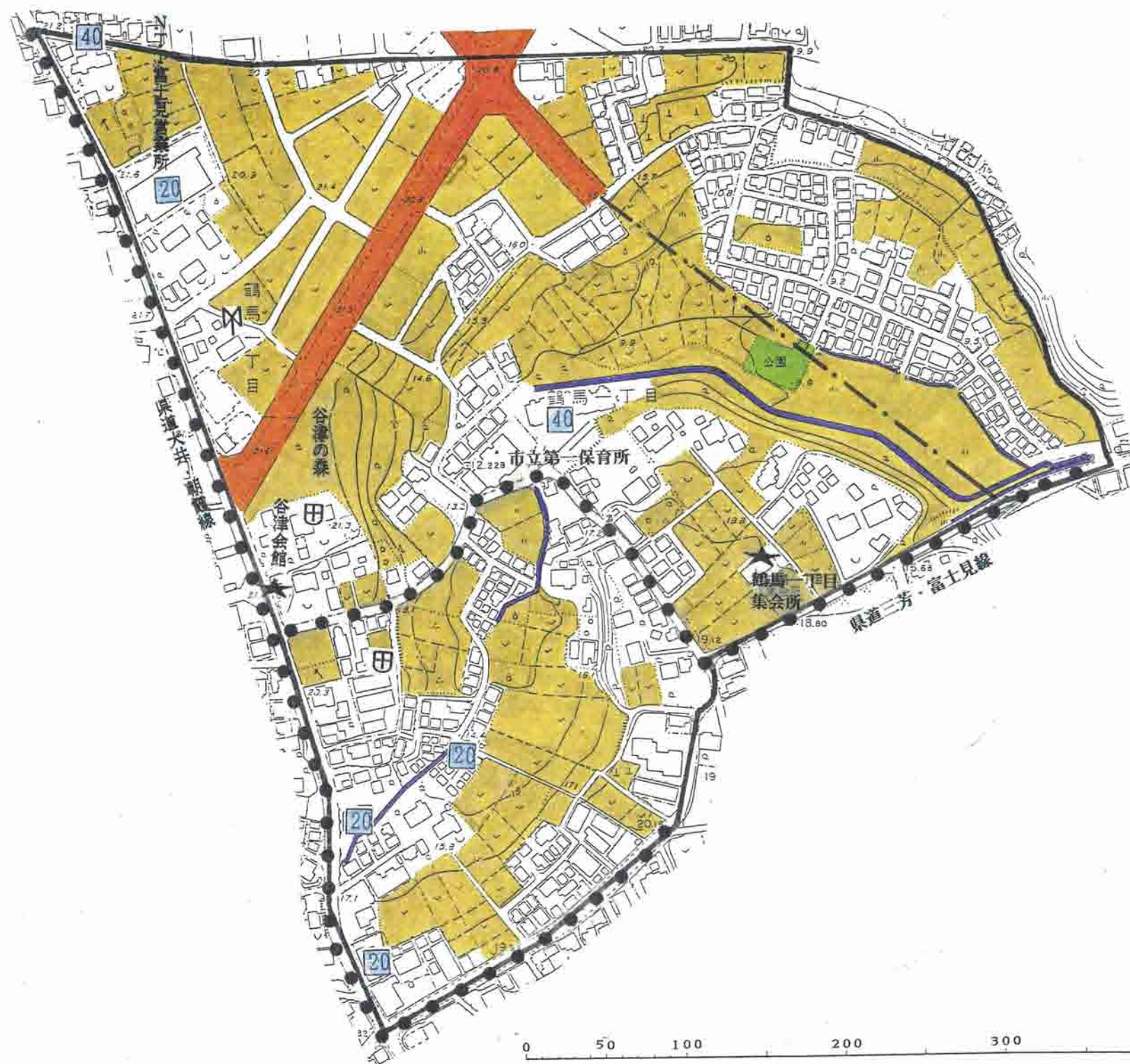
10. 問題点の整理

災害発生要因		災害抑止要因	
1. 内水災害	権平川の改修工事が進み内水災害は少ない。	1. 水防能力	水防施設は、設置されていない。
2. 外水災害	無い。	2. 防災組織	無い。
3. 倒壊危険	低地部、浅い谷にある木造住宅の倒壊の危険性がやや高いので注意を要する。台地部では危険性は低い。	3. 消防能力	世帯数と比較して消火栓数が少ない。地震火災が予想される住宅地内の生活道路の幅員が狭いため消防車の消火活動に支障をきたす。
4. 出火危険	低地部、浅い谷にある木造建物密集地で出火の危険性がやや高くなっている。	4. 防火能力	木造家屋密集地域の防火能力は低い。
5. 延焼危険	不燃領域率が50%から70%と低いため延焼の危険性がやや高いので注意を要する。	5. 避難収容力	避難所が町会内にないため、富士見台中学校(諏訪2丁目町会)を共用する。 1人あたりの公共空地は3.0㎡/人と見込まれる。
6. その他の災害	無い。		

11. 解決の方向性

低地部、浅い谷に集中している住宅地の地震火災の危険性がやや高いと予想される。したがって、この地域の消防能力を向上させるため、消火栓の増設、幅員の狭い生活道路の事前評価を行い、消防車の有効利用を検討しておくことが望ましい。
 避難路の確保のため、避難可能な道路へ出るまでの住宅地内の生活道路の狭隘化の予防対策の指導が望まれる(ブロック塀の倒壊、商店の自動販売機の転倒防止)。

防災現況図B (災害抑止要因)



凡 例

	消防署・出張所
	消防団機械器具置場
	水防施設
	防火水槽・プール
	警察署・派出所・駐在所
	市役所・出張所・公民館
	防災行政用無線子局位置
	コミュニティ・集会施設
	保健所・保健センター
	病院
	医院
	休日診療所
	指定避難所
	公園
	河川・水面
	避難可能な道路
	幅員12m以上の道路
	幅員12m以上の道路 (計画中)
	学校(小・中・高)
	空地・水田・畑

